

「一枚ポートフォリオ」を活用した実践の計画

指導計画

(1) 対象 中学3年生

(2) 単元名 詩を味わおう『いのちの根』『わたしと小鳥とすずと』

(3) 指導目標

① 教材『いのちの根』

○ 「いのちの根」は、じっと耐えることでふかくなっていくことを文章で表すことができる。

② 教材『わたしと小鳥とすずと』

○ 「わたし」「小鳥」「すず」は並立の関係にあり、同等の対場であることに気付くことができる。

○ 「みんな」に着目し、作者が強調している点をもとに、最後の行が意味することを考え、文章に書くことができる。

(4) 『わたしと小鳥とすずと』について

① 工夫と仕掛けが見事な作品

『わたしと小鳥とすずと』が多くの人々の感動を呼ぶのはなぜでしょうか。それは、この詩に工夫や仕掛けがあるからです。「わたし」と「小鳥」と「すず」とには、ぱっと見て共通点を見つけ出すことはできません。しかし、何かしらの意味があります。「わたし」は人間の立場から、「小鳥」は人間ではない動物で、人間にはない一種人間があこがれをもっているものの立場です。そして、「鈴」は身近にある物で、人の胸を揺さぶるものの立場です。

このようなことをもとに読んでいきます。そして、いろいろなことに気付いていきます。その過程を大事にしていきます。

② 実感としての「みんなちがって、みんないい。」

生徒の多くは、この詩を知っています。特に「みんなちがって、みんないい。」に関しては、「互いの個性を認め合うことが大切である」というような表面的で優等生的な読みをしているかもしれません。しかし、「みんなちがって、みんないい。」に着目してみると、「みんな」を反復し、強調しており、「みんな」「みんな」であることがわかります。

また、「ちがう」は「違う＝悪い、よくない」と考えがちな私たちにとって、少し意外な言葉です。ところが、この詩を読んでいると、すんなりとこの言葉を受け取れてしまいます。

そんなこの作品のすごさを実感させることができれば、授業者としては言うことありません。

実践の見通し

『いのちの根』の読み取りでは、詩の中の「ふかく」を読みキーワードとして取り上げ、さらに題名に戻って「いのちの根」とは何かを問います。

『わたしと小鳥とすずと』の学習では、前時の課題『みんなちがって、みんないい。』とはを確認し、「みんなちがって、みんないい。」とはどのような意味なのかを問題にし、最後に、この2つの詩の学習を通して、あなたの何がどのように変わったのか、そのことについてあなたは思うのかを生徒に尋ねます。